

厚生労働省委託事業「受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業」
「DX 推進ができる ICT 活用サポーター養成訓練プログラムの開発とその実効性を高める
地域密着型女性求職者トータルサポートシステムの構築」

ICT 支援員に関する ヒアリング調査報告書

学校法人 YIC 学院

目次

1. 事業の目的	1
2. ヒアリング調査の趣旨・目的	1
3. ICT 支援員及び ICT サポーターに関する ヒアリング調査	1
3-1. 調査方法.....	1
3-2. 調査項目.....	2
3-3. 調査結果.....	4
4. 講評	26
5. 総評	27

1. 事業の目的

本事業は、厚生労働省からの委託事業であり「人への投資」を推進するため、一般の方からアイデアを募集し、提案のあった幅広いニーズに対応した訓練を実現させるため、中高年労働者や非正規雇用労働者、生活困窮者など多様な事情や背景を持つ受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及等に取り組むことを目的としている。

そこで当学院は結婚や出産、その他の理由により長期離職している女性、家族の転勤等により離職を余儀なくされ、離職を繰り返している女性を対象とした新たな教育訓練プログラムを開発する。子育てや介護といったライフイベントと仕事の両立、また新たな人間関係構築等、多くの不安を抱えて再就職への一歩がなかなか踏み出せない対象者が想定される。そのため、訓練前から就職後までの個別・集団による伴走支援をパッケージで行う。社会復帰と教育・組織への貢献に向けた知識やスキルの習得と職務経歴やこれまでの経験を生かした活躍ができ、ICT活用を軸とした新たな能力開発を自律的に築くことができるようになることを目指す。

2. ヒアリング調査の趣旨・目的

この調査は、ICT支援員として求められる人材像について具体的な情報を収集することを目的としている。ヒアリング調査の結果は、受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業「DX推進ができるICT活用サポーター養成訓練プログラムの開発とその実効性を高める地域密着型女性求職者トータルサポートシステムの構築」に反映する。

3. ICT 支援員及び ICT サポーターに関する ヒアリング調査

3-1. 調査方法

(1) 調査手法

- ①ヒアリング対象：校長先生、教頭先生、情報担当教員又は教員
代表者、総務人事担当者

②ヒアリング方法 : 2名の職員にて対象校及び法人に訪問し、対面にて実施
1時間程度のヒアリングを実施

(2) 調査対象

山口県内にあるICT支援員が活躍する小中学校、高等学校及び企業を対象とする。

- ・山口市立平川小学校
- ・柳井市立大畠中学校
- ・山口県立徳山商工高等学校
- ・株式会社スズキ自販山口

(3) 調査日程

令和6年1月16日～1月17日(2日間)

3-2. 調査項目

1. 概要
<小・中・高等学校> ①所在地・外観写真を含む ②校名・校長名 ③教職員数及び構成 ④生徒数 ⑤学校理念・教育方針 等 <企業> ①所在地・外観写真を含む ②社名・代表者名 ③従業員数 ④事業概要 ⑤代表挨拶
2. ICT支援員及びICTサポーターについて
<小・中・高等学校> ①ICT支援員の配置数と週当たりの勤務日数と時間 ②学校で使用しているICT機器およびそれを活用した学習内容 ③ICT支援員の業務内容 ④ICT支援員と教職員の関わり ⑤ICT支援員と学生の関わり ⑥ICT支援員に対して必要とするスキル、またどのような人材を求めているか ⑦ICT支援員という役割や仕組み全体に対して感じること、課題、期待すること

<企業>

- ①企業が現在雇用しているまたは今後雇用を考えているICTサポーターの人数及びその雇用形態
- ②ICTサポーターの業務内容
- ③ICTサポーターを雇い入れる場合、どのようなスキル、経験や資格が必要か
- ④ICTサポーターに対して行っているまたは想定される企業内での研修内容
- ⑤採用試験の実施方法
- ⑥DX化進展に伴う、今後のICTサポーターの採用計画
- ⑦ICTサポーターの採用(雇用)に関する課題
- ⑧ICTサポーターという役割に対して期待すること

※ICTサポーターとは、ITに強い人材(IT人材)のことで、一般的に企業内のIT要員として採用されている人材を指す。

3-3. 調査結果

ICT 支援員に関するヒアリング調査結果は、以下の通り。

(1) 山口市立平川小学校

ヒアリング日時 : 令和 6 年 1 月 17 日 (水) 15:30~16:30

ヒアリング担当者: 校長 山本 純也

情報担当教員 坂本 祐介 、 吉井 崇人

【概要】

① 所在地	〒753-0831 山口県山口市平井 1675-2 電話 083-922-1789/FAX 083-924-9930
② 校名/校長名	山口市立平川小学校 校長 山本 純也
③ 教職員数及び構成	校長 1 名/教頭 2 名/教諭 46 名/養護教諭 2 名/ 事務職員 2 名/学校栄養職員 1 名 ICT 教育を推進する校務分掌 情報教育 2 名
④ 生徒数	891 名 ※令和 5 年 9 月 1 日現在

⑤ めざすこどもの姿

学園都市ひらかわ グランドデザイン R5版

(平川小・平川中連携教育構想)

平川幼稚園・愛児園平川保育所
平川小学校・平川中学校
西京高等学校・中村学園専攻科
山口大学・山大附属特別支援学校
+
平川コミュニティ推進協議会

子どもたちのなりたい姿いろいろ
いろいろな人と話したい。 きちんと正しく伝えたい。
理解力が上がるといいなあ。 あ話で盛り上げたい。
みんなと仲良くなりしたい。 友達が増えるといいなあ。
いろんなことに挑戦したい。 自信を持ちたい。
勉強が分らない。 学校生活を充実させたい。
社会性を身に付けたい。 などなど

学校が核となり
全ての人が生き生きと学ばまら

平川小・中のめざすこどもの姿
夢・目標をもち、瞳かがやく平川っ子

☆何が出来るようになるか

	小学校 1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	中学校 1 年	2 年	3 年
良質な インプット 授業づくり 家庭学習	学校 「わかる」「できる」を味わい、学習意欲を高める	2年	3年	4年	5年	6年	中学校 1 年	2 年	3 年
アウトプット の実践 あいさつ	学校 あいさつの大切さを知り、習慣にする	2年	3年	4年	5年	6年	中学校 1 年	2 年	3 年
正しい モチベーション 情報モラル ・SNS	学校 基本操作やルール・マナーを学ぶ	2年	3年	4年	5年	6年	中学校 1 年	2 年	3 年

必要な教育活動の視点

① 知的活動 (論理的思考力を育成する)
② 感性・情緒等 (体験活動で感性を磨く)
③ コミュニケーション能力 (意見交換・交流で考えを深める)

平川ネットのしくみを生かした取組

知的活動の活性化! 地域連携授業 地域の支えを資産! 地域による学習会 地域の方との交流! 地域行事で学ぶ (平川まつり)

① 地域学習 ④ ひらこや ⑦ 販売実習
② 地域参加型道徳 ⑤ おおすぎ塾 ⑧ ボランティア

【ICT 支援員に関して】

①ICT 支援員の配置数と週当たりの勤務日数と時間

現在、2名の支援員に来てもらっている。ばらつきはあるが、概ね月2回の頻度で時間は16時40分までの勤務である。

支援員の2名がペアで活動している。平川小学校であれば、日課が6時間である場合、1日に最大6クラスの授業に入ることができる。通常学級が28学級であることから、各学級の授業には2ヶ月に1回弱、1学期に1～2回の頻度での支援となる。

授業では支援員にしっかり参加してもらっている。担任の教員が指導しつつ、支援員がサポート。ログインの仕方やタブレット端末に関する指示など、専門的な知識や初歩的なことは支援員が電子黒板に掲示しながら手際良く一斉に指示している。その際、2名の支援員の一方が担任の先生とともに机間指導し、児童の個別支援をするという体制。1学級の児童数が多く、支援員も2名いないと厳しい。

毎年同じ方が支援員として来ている。学校事情がよくわかるので変わらないほうがありがたい。年齢的には40～50代くらいの方だと思われる。

②学校で使用している ICT 機器およびそれを活用した学習内容

ICT 機器は一人ひとりが Chromebook (クロームブック) を主に使用している。使用用途としては、Web での調べごとだったり、成長記録などの写真・動画の撮影だったり、振り返り・アンケートの打ち込みと回収だったり、プリントの代わりとして使ったりする。クラスによってはプレゼンの作成、および発表もする。

学校全体へのアンケートや保護者への学校評価などは、今は紙媒体ではなく、Google フォームを用いている。

アプリケーションは Classroom (クラスルーム) を使っている。また、山口市は SKYMENU (スカイメニュー) を採択している。児童の意見を全体に提示したり、課題を出して回収したり、といったことは主に SKYMENU を用いて行っている。

他にもタブレットドリルという学習ツールがあり、国語・算数・理科・社会で活用している。英語にも同じようなアプリケーションがあるらしく、各科目、高校まで各学年の段階に合わせたものが存在しているという情報も支援員から届くことがある。

とある教員の前任校がある岩国では iPad でロイノートを採用しており、使いやすさを実感しながら活用していた。平川小学校に赴任し、変化に最初は戸惑うこともあったが、Google フォームなど、Google ならではの機能だったり、SKYMENU の全体共有の機能だったり、当時のロイノートにはなかった機能を活用するようになった。その変化を楽しむ、わくわくする面もあった。ただ、随時、様々な機能が新しく追加され、年々アップデートされていくため、その変化にきちんとついていかなければいけないと強く感じる。

③ICT 支援員の業務内容

主な業務としては、教員と授業に参加し、各種支援をしてもらうこと。低学年であれば、ログインの方法や写真の取り方など基本的操作面について。高学年であれば、プログラミングやプレゼンシートの作り方なども、児童に電子黒板等用いながら指導してもらう。例えば、プレゼンシート作成では、学習内容については教員が指導・まとめを行うが、レイアウト、タイトルの打ち込み、小見出し、文章、写真挿入等、各種基本操作については支援員が説明する。

他業務には、授業がない教員からの機器メンテナンス・アップデートの依頼など。

小学校は、ICT 機器の最初の一步であることから、初期・基本操作から応用まで幅広く支援する業務の比重が中学校、高校よりも多いと思う。中学校・高校では、生徒が機器操作をある程度既に使いこなせていることから、校務支援の比重が多くなると思う。

来年度から校務支援システムが県内統一となる。そのため、機能の種類、有効性、活用法などについて、支援員による指導が必要となる機会が飛躍的に増えると思われる。現段階では、今までの積み重ねがあり、システムについての理解をしているので、比較的、不明点や質問点は少なく済んでいる。

ただ、支援員曰く、校務支援システムの統一に際して、内容や構造に関する具体的情報が実際の支援員に届くタイミングがシステム統一の最終段階であるとのこと。厳密に支援員は学校の部外者であるため、学校教員向けの研修には基本的に参加できない。支援員向け研修が実施されたとしても、学校教員よりも遅い最終のタイミングとなっている。システムに関する情報が届くのが遅いことから、支援員から困っている様子が伺えることもある。

④ICT 支援員と教職員の関わり

授業に向けて『情報モラル』についておしえていただきたい」「～といった授業をしたいのでお手伝いをお願いします」など具体的な要望を事前に打合せし、準備、サポートをしてもらうようにしている。児童向けだけでなく、教員向けに機能について説明してもらうこともある。支援員は学校に常駐していないので、児童への説明を教員も聞き、児童たちと同様にスキルを吸収し、教員のスキルアップを図るようにしている。児童へ支援してもらっていると同時に教員にも支援してもらっている。

職員室にも出入りするようしており、日常的にフランクな会話もしている。昼食はお弁当持参し、職員室でとってもらうようにしている。そのタイミングでコミュニケーションを取ることも多い。基本的に教員は会話を多くするため、支援員もそれに合わせてコミュニケーションを上手に取ることができれば楽しく関わるができると思う。日常のフランクな会話と業務に関する公の会話、どちらも大事にし、お互いの関係性を作ることが重要である。業務については、「～もできますよ。」「～ということを試してみますか。」「～をやってみたら面白かった。」など意見・感想を言ってもらえれば、教員としては非常に刺激になり、ありがたい。

支援員が学校で勤務している日の放課後、30分ほど残ってもらって、教員から質問や相談を受ける「デジタルカフェ」という時間を設けている。教員が描く実現したい授業像などに対し、活用できるツ

ールなど情報を提供してもらっている。デジタルカフェは市から支援員に向けて、学校で実施するように指示があったらしい。親身に相談に乗ってもらえるのでありがたい。

来ていただいている支援員はとてもコミュニケーション能力が高く、朝は必ず挨拶し、退勤時も「今日、お世話になりました。」と教員にも事務員にも挨拶をしている。そのような礼儀がきちんとできているから気持ちがいい。

しかし、情報部の教員はしっかり関わりを持つことができているが、それ以外の教員はあまり話すことがないように感じる。

⑤ICT 支援員と学生の関わり

教員とともに授業に参加し、学年に合わせた ICT に関する各種支援をしてもらっている。児童にも「情報の先生」として馴染んでいて、教員とほぼ変わらない関わり方をしている。

授業だけでなく、情報委員会や情報パソコンクラブといった場でも参加してもらい、意見をもらいながら児童と関わっている。教員よりも児童とのコミュニケーションのほうが長いと思われる。

⑥ICT 支援員に対して必要とするスキル、またどのような人材を求めているか

まずひとつとして、どんどん新しく更新されていく情報をしっかり取り入れることができるほうがいいと思う。トレンドや新しく出てきたものを時代に合わせて収集できる、察知できる能力は必要。

他の学校では、どのように ICT 活用をしているのか、実践しているのかということが、教員として気になる。そういった情報共有をしてもらえたら、授業における新たな活用法の発見につながるので嬉しい。

児童に関する特殊な情報を管理するため、個人情報の保護といったようにしっかりとした倫理性やモラルを持ってもらいたい。昨今、インターネットを通して情報が漏れる事件などによって、保護者もその点に非常に敏感になっている。公務員ではないが、学校に出入りして勤務している自覚を持って、日頃の行いを整えてもらいたい。SNS においても個人で楽しむのは結構であるが、仕事に関するつぶやきをするのはもちろん禁止。何かトラブルがあった際に、後から対応をとるのは非常に困難であるため、その点に関する意識は高くあってほしい。また、小学生のスマートフォンの利用率は高く、現時点では SNS の大きなトラブルは発生していなくとも今後発生するかもしれない。そのために、SNS 利用時の注意点等についても事例等把握してもらいたい。

指導の際、児童を見ながら指導ができるか、伝わりやすい言葉に変えて説明できるか、親身になれるかというのは求められるのだろうと思う。児童の前に立つ機会は経験ないことだと思うので、緊張もするだろうが、ずっと電子黒板を見てしまって児童を見ていないということはいけな。「ログイン」という言葉ひとつにしても、意味を分かっている学年とわかっていない学年があるということなど、どのように児童に知識など身に付いているかを把握しながら指導しなければいけない。毎日学校に来ていない分困難だが、児童の日々の変化を確認しながら、ペースを合わせて、一方通行にならないように関わっていくことが求められる。教員だけでなく、児童ともコミュニケーションを取ることができると

というのは非常に大切。クラス担任の教員がいるので、絶対に必要なスキルではないが、子どもが好き、人前で話すことが好きでないと辛いかもしれない。

学校という場が教育現場であり、発達特性に合わせて児童が身に付けられることを目指すというところまで、見通しを持つことは難しいと思う。

⑦ICT 支援員という役割や仕組み全体に対して感じること、課題、期待すること

情報機器が次々に更新され、知らないことが増えていく。スキル面でもついていけない部分があるが、支援員がたくさん関わってくれたら、教員としても学べる機会が増え、吸収できる。もっとたくさん来てもらえたらありがたい。学校に来てもらえる希少な2日間であるため、学校として何を支援員に求めているかはっきりさせ、しっかり伝えていくことをしないといけないと思う。

また、支援員も初めて得た情報はわからないので、支援員同士で情報共有をできるようなネットワークが必要だと思う。

ICT 機器を用いた授業をするようになって、扱いに長けている教員とそうでない教員への負担の違いがある。授業開始から機器を立ち上げるまでに時間を5分使ってしまうと、もはやICT 機器を使わないほうが、効率がいいという事態にもなってしまう。スキルアップを教員がしなければいけないが、そういう指導・支援もしてもらえればありがたい。今の支援員は、そのほかの質問等をメールで相談すれば、解決の提案をしてもらうことができ、非常にありがたい。

来年度から、教員用の教科書(朱書き)が国語以外すべてデジタル化になる。印刷するか、Chromebook のまま授業を行うのかと協議を進めている。しかし、教員もスキルアップしなければいけないので、そういった情報を得られるように支援がほしい。

(2) 柳井市立大畠中学校

ヒアリング日時 : 令和 6 年 1 月 16 日 (火) 11:15~12:15

ヒアリング担当者: 教頭 北村 信一

情報担当教員 松原 哲也

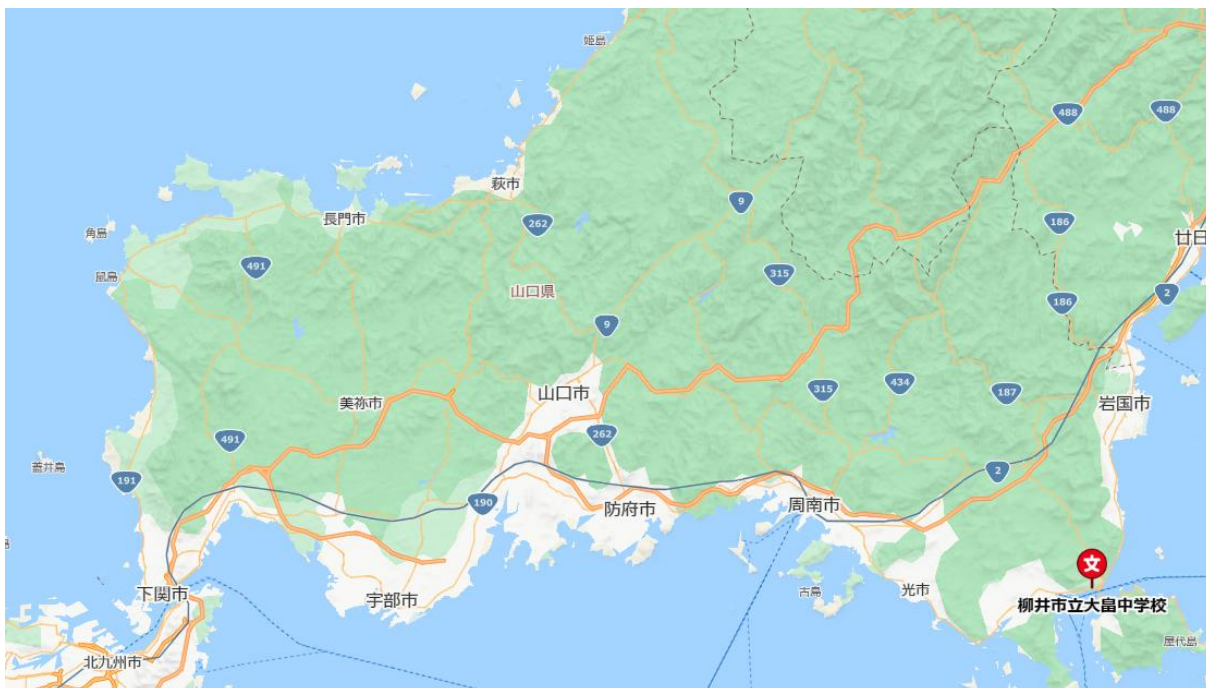
【概要】

① 所在地	〒749-0101 山口県柳井市神代 4273 番地 電話 0820-45-2202/FAX 0820-45-2274
② 校名/校長名	柳井市立大畠中学校 校長 坂田 邦夫
③ 教職員数及び構成	校長 1 名/教頭 1 名/教諭 7 名/養護教諭 1 名/ 事務職員 1 名/非常勤 4 名/ ICT 教育を推進する校務分掌 情報教育 1 名
④ 生徒数	37 名
⑤ 校訓/学校経営方針	<p>校訓 「創造」「愛情」「根性」</p> <p>学校教育目標 広い世界に目を向け、自己の殻を破る“おおばたけっ子”の育成 — 一本気と感動の教育を通して —</p> <p>めざす学校像</p> <p>1) 一人ひとりが夢の実現に向かって、いきいきと躍動する 安心・安全な学校</p> <p>2) 生徒、保護者、地域、教職員のだれもが大好きで、 愛され行きたくなる学校</p> <p>めざす生徒の姿</p> <p>【うずしお学園(保小中)のめざす児童・生徒像】</p> <p>『大畠で学び育つことに誇りをもち、夢に向かって行動する たくましい子』</p> <p>創造 [気づく] 自分のよさに気づき、自信をもって積極的に 行動する生徒</p> <p>愛情 [慮る] 他者の思いや願いを受け止め、やさしく 接することができる生徒</p> <p>根性 [頑張る] 困難なことに負けず、挑戦し続ける生徒</p>

<外観>



<所在地>



【ICT 支援員に関して】

①ICT 支援員の配置数と週当たりの勤務日数と時間

市教委から、週当たり 3 日、21 時間程度で雇用する ICT 支援員 1 名の派遣を受けている。
(そのうち本校での勤務は、月 2 回、週当たり 0.5 日、1.5 時間程度)

②学校で使用している ICT 機器およびそれを活用した学習内容

生徒と教員は、学習用または指導用として iPad のタブレットを使用している。生徒はタブレットを毎日持ち帰って学習に活用しており、いわば文房具感覚で、とても身近なものとして使っている。

活用方法として、一般的な調べ学習や、Google クラスルームを用いての授業の振り返り、課題の提出などがある。授業評価アンケートは、Google フォームを用いて作成し、デジタル化を図っている。例えば、デジタル教科書を活用する英語科目では、単語や本文の読み方が音声で再生されることで、理解を深めながら生徒自身のペースで学習ができています。

また、タブレットを用いて、生徒の決まりごとや、テストの範囲表などの配付資料の多くをデータで配信するとともに、欠席した生徒や保護者への日課連絡にも活用している。これは、紙資源の有効利用のほか、本市が掲げるゼロカーボンシティ実現に向けた取組の一環でもある。

そして、学習目的以外の利用や、健全な生活習慣を阻害する可能性のある深夜利用の制限、さらには、一定の語句についてフィルタリングをかけるなどの校内外におけるタブレットの利用ルールについても、生徒や保護者との共通理解を図るため、適宜配信に努めている。

③ICT 支援員の業務内容

ICT 支援員は、主に、タブレットや校務用パソコンの動作確認とアプリのアップデートなどの業務を行っている。また、CBT 方式により実施される全国学力・学習状況調査や山口県による定着状況確認問題を実施する際の事前準備や補助、そのほか、教職員対象のタブレット操作研修など、多岐にわたり ICT 活用促進への支援をお願いしている。

なお、授業支援については、生徒自身が概ねの操作に慣れていることもあり、現段階における支援回数はさほど多くない。

④ICT 支援員と教職員の関わり

ICT 支援員と教職員との連絡調整は、主にチャットツールのエルガナというアプリを用い、基本的には、業務依頼の重複等を防ぐため、情報担当教員を通して行っている。

現在の支援員は複数校を担当し本校には常駐しないため、リアルに対面でのやりとりをしない場合が多いが、アプリによる問い合わせによっても、概ね迅速に対応がなされている。

アプリにおいて事前に問い合わせ内容を伝えることができることから、支援員の来校時の対応もスムーズに行うことができ、時間的にも、内容的にも、効果の高い支援を得られていると感じている。

また、来校時には、授業における効果的なICT活用の方法や学習アプリの操作手順など、直接丁寧に指導の支援を受けており、ネットとリアルともに良いコミュニケーションが図れている。

⑤ICT 支援員と学生の関わり

現状、教室外での業務が多く、授業の中で、ICT 支援員と生徒が関わり合う機会は少ないが、タブレット等を用いた授業で教師がサポートを必要とする際は支援を依頼し、生徒との関わりができていく。そのほか、CBT を実施する際には、生徒との予行演習を含め、アプリのインストールやアップデートなどの補助も依頼している。

⑥ICT 支援員に対して必要とするスキル、またどのような人材を求めているか

互いの意思疎通を正しく行うためにも、一定のコミュニケーション力は必要である。

採用方法にもよるが、Word や Excel を使えるスキルがあれば、基本的な支援業務の遂行は可能と思われる。ただ、今後キーボードではなく、フリック入力しかできない教職員が生まれる可能性も否めず、特に、校務で多用する Word や Excel の基礎的、効率的な活用を支援、指導できる人材であれば有り難い。

また、国等の目指す教育方針において、ICT をどう活用していくかといった大枠の計画を理解し、可能ならば、教職員には気付かない視点での活用方法や、担当する学校に応じた道筋などについて、助言を得ることができれば有り難い。

⑦ICT 支援員という役割や仕組み全体に対して感じること、課題、期待すること

教職員の勤務実態はとて厳しく、その改善に向け、国としても勤務時間の短縮をはじめ、個々の授業への研鑽や効果的な教育活動を実践するため、働き方改革を推し進めていることは承知している。

そういった状況において、教材作成や操作補助などの教職員の業務軽減につながる ICT 支援員としての役割は非常に大きいものがあると考えている。

欲を言えば、学校業務全般において支援を望みたいところであるが、それぞれの管理責任において雇用形態に応じた業務の棲み分けが生じることは仕方のないことでもある。

ICT を活用することは、とても効率的に活動や作業を進めることができる一方で、時代とともに進展するシステムを使いこなすために、多くの労力を必要とすることもある。

教職員が共通仕様で ICT を利用するためには、皆が ICT の知識や技量のベースを上げれば良いのであろうが、反面、日々の学校経営活動とは別に、変化するシステムに即応するための時間的投資を行うには厳しいところもある。

現在の ICT 支援員は知識・技量に加え、コミュニケーション力も兼ね備えており、本校にとっては貴重な存在となっている。

これからは一段と教育分野での DX 化が進み、同時に、継続的な教職員のスキル向上は避けられない課題でもあることから、支援員には、今後とも広汎なアドバイスを頂けると有り難い。

あらためて ICT 支援員の尽力に感謝申し上げたい。

(3) 山口県立徳山商工高等学校

ヒアリング日時 : 令和6年1月16日(火) 14:15~15:15

ヒアリング担当者: 教頭 柳田 浩司

教諭・商業科主任 情報管理室長 田中 孝治

教諭・機械科 教務部 木下 賢治

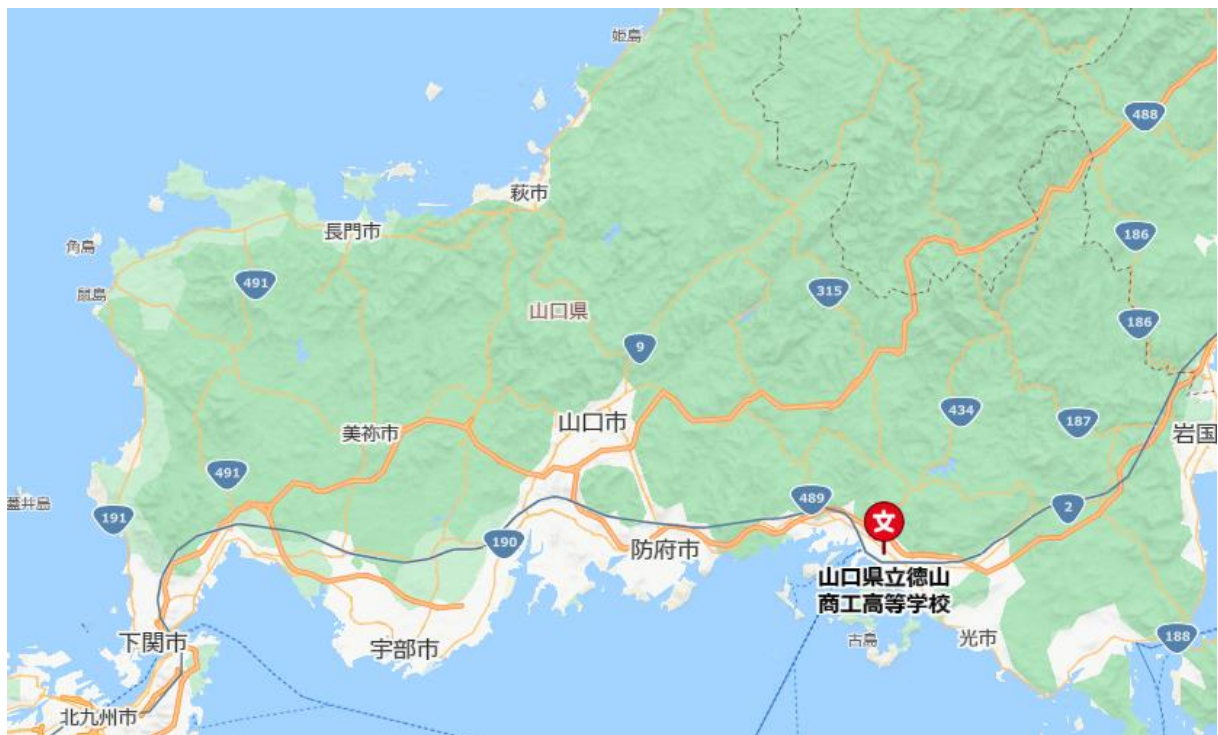
【概要】

① 所在地	〒745-0823 山口県周南市周陽三丁目1番1号 電話 0834-28-0026/FAX 0834-28-0027
② 校名/校長名	山口県立徳山商工高等学校 校長 伊藤 定好
③ 教職員数及び構成	校長1名/教頭1名/教諭45名/養護教諭1名/ 事務職員7名/実習教員6名/非常勤講師15名 ICT教育を推進する校務分掌 教務部・情報管理室 若干名
④ 生徒数	526名 ※令和5年度現在
⑤ 沿革/校訓	<p>本校は山口県周南市周南団地の南側に位置し、徳山商業学校(昭和3年4月創立)および徳山実業実践学校(昭和4年創立)をその基盤としています。昭和24年徳山商工高等学校となり、昭和42年徳山商業高等学校と徳山工業高等学校に分離しましたが、平成18年4月再び統合し、徳山商工高等学校となりました。</p> <p>周囲は緑地・運動公園地帯で、陸上競技場、野球場、テニスコート、プール等があり、緑の豊かな極めて恵まれた環境にあります。</p> <p>新しい徳山商工高等学校は、両校がそれぞれ培ってきたビジネス教育・エンジニア育成教育を効果的に結合し、国際化・情報化・サービスの経済化に高度に対応できる人材や、産業界をリードする技術者の育成を目指します。</p> <p>校訓:「誠実」「協働」「実践」</p>

<外観>



<所在地>



【ICT 支援員に関して】

①ICT 支援員の配置数と週当たりの勤務日数と時間

配置数は 1 名。週 1 回。時間数は 8 時間。来校する曜日が決定しており、他校にも支援員として配置されているので曜日をずらすといったことは難しい。2 年くらい前から支援員を派遣してもらっており、今年で 3 年目となる。

②学校で使用している ICT 機器およびそれを活用した学習内容

ICT 機器としては「マイクロソフト Surface Go 2」

機器を活用しての授業として、総合的な学習の時間のレポート提出、商業科では、プログラミングや情報処理の課題提出などで Google のクラスルームを活用している。英語科ではスピーキングのテストに使ったりもしている。

工業科は 3 年生になると課題研究という授業があり、その発表の資料を作ったり、パワーポイントで作ったりという活用をしている。また、座学の授業で教材を見せたり、共有したりということで使用している状況である。機械科では CAD を使っているが、マシンのパワー不足でしんどい部分はあるが、Fusion360 という CAD を使っている。電子情報技術科も専用のプログラム関係のアプリケーションを使っていると伺っている。

商業科の場合は、エクセル、ワード、パワーポイントがあれば授業は可能である。新しくアプリケーションを入れる必要はないのと、ウェブ上のアプリケーション、Canva 等を使うときがある。ただこれもマシンパワー不足や、キャンバを使うとネット回線の問題がある。ビジネス系に関してはエクセル、ワード、パワーポイントがあれば十分やっつけていける。

Surface は学校で準備したものではなく、県が一括購入したものをおろしてもらっているという形である。県下でアカウントも何万アカウントもある感じで、県立高校すべて同じものが入っていて、配られている。

学生はこれを持ち帰って学習に使う。徳山商工高校では、生徒は持って帰って、持って来ることが多い。稼働率が高いため破損も多いという問題はある。

生徒が完全に自由に使えるのではなく、制限はかかっている。アイフィルターという制限がかかっている。

③ICT 支援員の業務内容

ICT 機器の管理やメンテナンスがメインである。教職員に向けた研修、授業支援などはない。後方支援というところもあり。教職員に支給されている端末は同じ Surfacepro だが、ICT 支援員は校務支援システムに入れないので、色合いが違う。

ICT 機器の管理やメンテナンスを具体的に言うと、今年起きた事象としては、物理的に破損という

場合は修理などの手続きは私たちがすることが多いが、OS の不具合であったり、ソフトウェアの中で、支援員で直せる部分については、アカウントは支援員しか持っていないので、それを使ってメンテナンスしてもらって、初期化してもらったりしている。

年度末になると3年生の端末を回収するという前に、学生がいろいろ悪いところを言うので、それを直してもらおう。OS のアップデート中に中断して、ブルースクリーンになってしまう。そういう場合は初期化しかないので。ハードウェアは生きているが、ソフトウェアは使えないという状況になった時にはお願いすることになる。

県立学校がフルクラウド化を来年度から導入する。県の情報管理室に連絡して情報収集するということは一番ICT 支援員が早いので、やり取りをしてもらっている。これまではGoogleメインだったが、マイクロソフトに今後移行していくということを伺っているので、そのあたりの相談にのってもらったり、県の思いと学校側の思いが違ってくるとまた最初から構築しなおさなければならないので、そのあたりを確認してもらったりしている。また他校のICT 支援員とつながっているので、他校の様子を伺っていただいたりしている。

④ICT 支援員と教職員の関わり

機器のメンテナンスをお願いすることがほとんどである。

⑤ICT 支援員と学生の関わり

特にかかわりがない。

⑥ICT 支援員に対して必要とするスキル、またどのような人材を求めているか

マイクロソフトの Teams 使って、フルクラウド化を進めているので、そういった関連の深い知識が求められる。できればパワーオートメイトもしっかり使える方がいらっしやるとうれしそう思う。これを全部手作業で1つずつやるということになると大変だが、ある程度先生方にこれをしてもらいたいというふうなそこくらいまで組める方がいらっしやればすごく助かる。

人柄としては一般的なコミュニケーションができれば。特に学校という場なので、守秘義務に絡むこと、個人情報がかかなりあるので、そういったところをきちんとできる方。

パワーオートメイトはプログラムの知識が必要。学校は基本的に紙の世界なので、それをデジタル化するにあたって、1個1個手作業ということが結構多くて、それを少しでも自動化するために、例えば、毎朝、職員朝礼があって、そこで資料を出すのが、端末が入ったタイミングでデジタル化をした。今まではGoogle でやっていたのだが、ひょっとしたらそれが使えなくなるかもしれないと思って、OneNote に変えようかなと思っている。日付を出すこと1個1個シートを作っていくというのは非常に手間がかかるので、オートメイトで作って一気に入るようにした。今後、ファイルをOneDriveの方に移動していくという作業を先生方をお願いしていくことになるが、そういう作業も確かオートメイトである

程度一括してできる部分があったりするので、私も調べながらやっているような状態で、日々の業務もあるので、そういったところでこういうことはできないだろうかと伺ったときにこうやったらできるかも、できますよというやり取りができるとすごく助かるということはある。

先生方も ICT に関して、すごく差があるような状況なので、最終的にはボタン 1 個押したら終わりですということまでいかないとなかなか難しいかなと。先生方の負担を軽減できるようなサポートがしてもらえるとよい。サーバーがなくなると言いながら校内にネットワークが残るので、ハード面の知識がある方もほしい。サーバーを管理できる先生がいらっしゃらなくなると、かなりしんどいことになる。サーバーを管理できる方がどこの学校にもいらっしゃるわけではなく、たまたま知識がある方がいて、その方が全部やられて、業務が集中していくような形。業者さんに頼むと費用が高い、年間回数が何回と決まっているらしい。ただ今後はクラウド化するので、サーバーについての作業は減ると考えている。

教職員に対する研修等をやっただけだとこれはかなり我々の仕事の助けになる。こういうときはこうしてくださいと、職員会議の時に資料等を使いながら先生方に説明をしていただく。基本的な使い方だけではなく、システムを出す手助けをしていただけたらとか、仕組みが変わるからこういうふうにやっていくとか、こういうファイルの検索方法とかこのファイルはどこにあるだとか、簡単な部分から知識は深くはなくてもいいと思うが、幅広く優しく教えていただけたらいいのかなと。県からは研修をするように言われているので、するとしたらいらっしゃる先生方がということになる。今のところは、県から送られてきた資料をもとに知識のある人がする。その人が説明して、ある程度、噛み砕きながらやるという状況。今後、サーバーからクラウドに変わるが、クラウドとは何だろう、何が変わったかもわからない、今からどうなるかわからない中で、我々は通常の業務もあるので。来年度から ICT 支援員にお願いする部分は多くなってくるのかなと思う。サーバーからクラウドへの移行は 9 月から。4 月ぐらいからガラッと変わった時に、いろいろ問題が出てくるとは思うが、その時に情報担当の先生の負担というのはおそらくすごいものになると思うので、もちろん複数人で対応していくことになるだろうが、その中に ICT 支援員の方に入っていて、マルっとお願いしますと言えるのはものすごく大きいことである。

常時いてもらうということが一番いいのだが、それは難しい。期待はするけど、基本的にこの ICT に携わる人材が少ないので。実際 ICT という言葉はすごく意味が広い。必要な時に来てもらえると一番いいのだが、それは難しい。我々が ICT 支援員の方にこういうことをしてくださいってお願いする場合もあるが、そうではない時間もかなりある。例えば何もすることがないから落とされるという方も中にはいらっしゃると思っている。いろいろできる方だと、校内の機器類のアップデートをしている、そういう方も中にはいらっしゃる。

こちらが仕事を考えてお願いというのはなかなか難しいので、来ていただける人数が増えるといいのだが、来てもらう回数が増えると、何をお願いしようとするのもというところがある。仕事をお願いすることないなっていう日もあるが、今来てくれている方は、いろいろ何かされているので、おそらく何か発見されたことを処理されているのだと思う。

支援員の方がいらっしゃる日もあるが、コミュニケーションは Teams を使って情報交換をしている。当校の ICT 支援員に限らず他の ICT 支援の方も入っていて、回答してくれることもある。そのコミュニティに解説者はみんな入っている。県の情報管理室も入っている。そこはかなり詳しい方が 1 人

いらっしゃる。お会いしたことはないが。

今後はマイクロソフトに一本化していくので、今授業で活用しているものが使えなくなる。Google のクラスルームとかを使っている授業もあるが、それが使えない。いわゆるセキュリティの関係もあって、ファイルの秘匿性を確保するためにということを出してきている中で、マイクロソフトの製品や機能について詳しい方が山口県では求められる。

⑦ICT 支援員という役割や仕組み全体に対して感じること、課題、期待すること

指示の切り分けがなかなか難しいということと、学校特有でいろんな個人情報を扱っているの、いろんなことを提案できないということもあり、ICT 支援員の活用が難しいということだが、これは校務支援とか授業支援とかいろいろあるが、その支援の垣根が全部超えられれば。相談できるのが週 1 回の月曜なので、例えば授業でこういう授業をして、こういうふうに使いたいのだがいい手がないですかねって思ったときにはいらっしゃらないということが多い。次の月曜に来たとき、もう既に忘れていることも。ICT 支援員の年齢は幅広いと思う。どれくらいの経験をしているかはわからない。前任で何をしていたかということも。

1 年交代で、学校側からこの人がいいと選べられない。ちょっと難しいと思っても誰に言うこともできない。ICT 支援員の評価はしていない。活用状況を調査するようなアンケートはある。基本的にどういふふうに使っていますかという形で聞かれることはあるが、その支援員ができる、できないという評価は学校ではしていない。週 1 回でどんなことをやっているかもわからないので、評価と言われると難しい。

(4) 株式会社スズキ自販山口

ヒアリング日時 : 令和6年1月17日(水) 11:00~12:00

ヒアリング担当者: 管理本部 専務執行役員 松本 俊二
総務部 係長 北岡 淳子

【概要】

① 本社所在地	〒759-0204 山口県宇部市妻崎開作 832 番地 電話 0836-45-0100/FAX 0836-45-0102
② 社名/代表者名	株式会社スズキ自販山口 代表取締役社長 椎葉 正博
③ 従業員数	214 名 ※令和4年11月現在
④ 事業概要	スズキ製品の軽四輪車、小型四輪車、福祉車両、電動車椅子の販売及び整備 等
⑤ 代表挨拶 健康経営宣言	<p>当社はスズキ株式会社の直営代理店として、山口県県下におけるスズキ製品の販売とメンテナンスを通じ地球環境にやさしくエコで安全安心なクルマの提供と生活を便利で豊かにしてくれるクルマ社会の実現を目指して日々活動しております。</p> <p>お客様のカーライフに貢献するには、社員自身が健康であることが不可欠であり、健康でなければお客様の信頼を得ることは出来ません。</p> <p>当社は、会社の成長を支える社員と家族の心身の健康を重要な経営資源の一つと捉え、健康維持・増進活動に対する積極的な支援と組織的な健康づくりの推進によって、社員がいきいきと豊かで快適・健康な社会生活と経済の発展に貢献する会社を目指します。</p>

<外観>



<所在地>

営業拠点
YAMAGUCHI
SALES NETWORK



↑スズキ自販山口の
ホームページは
こちらから！

- | | | | |
|---------------------------|----------------|-------------------------|----------------|
| 1 本社/宇部営業所/
スズキアリーナ宇部西 | 宇部市大字裏橋開作832 | 9 光店 | 光市中央1-4-23 |
| 2 下関営業所/
スズキアリーナ下関あやらぎ | 下関市鏡橋本町4-5-16 | 10 柳井営業所/
スズキアリーナ柳井 | 柳井市大字柳井1534-10 |
| 3 スズキアリーナーの宮 | 下関市秋穂東町2-26 | 11 岩国営業所/
スズキアリーナ北岩国 | 岩国市室の木町1-5-13 |
| 4 スズキアリーナ長府 | 下関市長府才川1-1-16 | 12 ユーズステーション宇部 | 宇部市大字中野開作387-1 |
| 5 スズキアリーナ小部 | 山口市小部若草町1-3 | 13 ユーズステーション山口 | 山口市朝田1598-1 |
| 6 山口営業所/
スズキアリーナ山口西 | 山口市朝田611-1 | 14 ユーズステーション下松 | 下松市瑞穂町1-6-2 |
| 7 スズキアリーナ防府 | 防府市西仁井倉1-14-30 | | |
| 8 徳山営業所/
スズキアリーナ徳山 | 下松市大字末武中1159-5 | | |

【ICT サポーターに関して】

※ICTサポーターとは、ITに強い人材(IT人材)のことで、一般的に企業内のIT要員として採用されている人材を指す。

①企業が現在雇用しているまたは今後雇用を考えている ICT サポーターの人数及びその雇用形態

新卒で専門学校の情報系学科を卒業見込みである2名をDX兼総務職で採用した。勤務は令和6年4月1日からとなる。

ITが時代の流れとともにどんどん進化する中で、当社のITに対する力を強化していく必要がある。そのため今回の新卒採用となった。今後は採用した専門知識を持つ社員が中心となって、社内研修なども実施していきITに強い企業にしていきたいと考えている。当社はメーカーの子会社であり、ICTなどのシステム関係は全てメーカーからパッケージとなり導入されるが、そのシステムに対応していく力も必要である。

現在は専門家ではないがハードに詳しい社員が1名いる。普段は業務事務を担当しながらパソコンの保守・メンテナンスなどを行っている。

②ICT サポーターの業務内容

スズキの自社システムに精通した、ICTを活用してお客様へ向けた情報発信などを担当する予定である。具体的にはYouTubeやSNS(X、Instagram等)で動画の制作や編集、記事の投稿を考えている。さらにホームページのデザインやメンテナンスなども担当して頂く。

スズキの自社システムについては、本社での研修等で学ぶ機会があり、また現場で実践することで活用できるようになる。ICTの進化は非常に速いため常に情報のアップデートが必要であるため、その情報なども素早くキャッチし社内共有していきたい。

③ICT サポーターを雇い入れる場合、どのようなスキル、経験や資格が必要か

②番の回答と重複するがホームページやYouTube、SNSでの情報発信等ができるスキルが必要である。また、お客様に情報をお伝えするには何が必要かを検討し社内で提案できる力が必要である。数年後には情報発信ツールとして新しいものが出ている可能性もあり、そのような情報を集めいち早く社内で提案し実行できることが理想である。資格についてはこの資格が必須となるようなことはない。

本社の事務に関しては、OfficeソフトであるExcelの数式などに詳しい方がいると非常に助かる。このようなものを作成したいとなったときに、訊ける方がいると業務の時短につながる。またExcelに限らずWordも含めOfficeソフト全般の力も必要である。

業務の効率化で考えると、スズキのパッケージで会計・登録・車両管理などでき、そこで全てを完結させたいと考えている。ただ、現時点では難しくOfficeソフトと連携して資料等を作成することがあ

る。

今後は全ての業務をスズキのパッケージで完結できるようメーカーも開発中であるため、そのようなシステムの運用も今回採用する DX 兼総務の社員が担当していく。

④ICT サポーターに対して行っているまたは想定される企業内での研修内容

1 年は弊社内で OJT によりシステム等を学習する。その後、採用した 2 名の内 1 名はメーカーである親会社に出向しさらに知識を深めていただく。メーカーには IT 部門があるので、そこでスズキのシステムを学習する。メーカーには様々な研修プログラムがあり、出向は 2 年～3 年と少し長い期間となる。

弊社内では OJT を中心に実際にホームページや動画を作成しながら実践で知識を深めていただく。

⑤採用試験の実施方法

面接が中心であるが適性テスト、筆記試験を実施した。筆記試験は IT パスポート試験から問題を抜粋し DX 要員として必要最低限の知識を持っているかを確認した。

⑥DX 化進展に伴う、今後の ICT サポーターの採用計画

人数を増員する考えは現時点ではない。当社の規模なら今回採用する 2 名で十分であると考えている。ただし今後の ICT の発展や世の中の動きによっては採用枠の拡大もありえる。状況を見て判断したい。

⑦ICT サポーターの採用(雇用)に関する課題

DX 兼総務という職種での採用が当社でも初めてとなる取り組みであるため、現時点での課題はない。今回採用する 2 名に期待している。

⑧ICT サポーターという役割に対して期待すること

会社全体が IT に対して強くなっていけるよう社内での情報共有及びお客様への情報発信と積極的に取り組んでほしい。そして、IT は今後も進化していくので、それに合わせて自身の情報もアップデートし対応いただきたい。例えばスズキのショールームをデジタルの世界の中で再現するなど、最近あるメタバースやバーチャル空間なども取り入れていきたいと考えている。

また、Google マップも地図だけでなく、店内の様子が 360 度見渡せるような機能があるため、各店舗のショールームを来店いただかなくても雰囲気など見えることができ、来店のきっかけにしたい。我々から何をしてほしいではなく、今の流行や他の企業の取り組みなどを活用して社内でどのような取り組みが可能かを提案いただきたい。

さらにホームページでは情報発信ができるコンテンツを取り入れ全社員が容易に発信できるように改善することも必要と考えている。今は中古車の販売となれば他社サイトへの登録がメインとなっているが、将来的には自社サイト内で中古車の販売も考えている。何年後か先には新車もインターネットでの販売の時代が来るのではと考えている。

そして外せないスキルとしてはコミュニケーションスキルであると考えている。持っている知識・技能を共有していくためには個別対応や研修を通して伝える事が必要である。

最後に情報セキュリティに関しても期待している。ネットワークにおいてはメーカーで管理されているが、その他メーカーでの管理では十分でない個所があれば提案いただき社内規定として取り組んでいきたいとも考えている。

5. 総評

<ヒアリング調査結果から見る ICT 支援員、ICT サポーターの必要性和今後の課題>

国の GIGA スクール構想に基づき、山口県は全国的にもいち早く 1 人 1 台端末と高速大容量の通信ネットワークの一体的整備がなされて、すべての児童生徒に 1 人 1 台端末が完備している。このような環境の中、各校へ派遣されている ICT 支援員の活用状況及び DX 化の次のステージへの移行期における課題等が見えてきた。

ICT 支援員の仕事は授業支援、校務支援、研修支援、環境整備支援の 4 つの支援を行うことで教員の業務軽減に繋がっていることはいうまでもない。ヒアリング調査の結果、どの学校においても、その場の状況に応じた ICT 支援員のサポートが必須であることが伺えるが、派遣される日が限られているため聞きたい時に聞けないことが多く、タイムラグが生じていることも事実。また新しいシステムやソフトウェアに関する情報不足や研修が十分にできないことに対する教員側の不安もある。特に情報機器の更新に伴うスキル不足をどの学校でも懸念している。

そのために ICT 支援員による学校業務の支援は重要であり、そのニーズは今後も増えることが予想される。これからの校務運営における学校の先生に対する情報活用の知識、能力が求められるのも必須。その業務の負担を軽減させるためにも今以上に ICT 支援員は必要である。

また企業における ICT サポーター(要員)については、企業の業務 DX 化推進に重要な業務であることが伺える。今回訪問させていただいた企業は自動車販売ディーラーであるが、この業界を取り巻く DX 化への対応だけでなく、自社が独自色を出して事業展開するためにも ICT を活用した販売戦略や顧客管理、地域貢献に目を向け、それ対応できる人材育成を目指していることが伺えた。

今回のヒアリング調査でわかったことは、これからの新しい時代に対応するだけでなく、その先の展開も見据えて学校教育、事業展開をするために、DX 推進に対応する人材は今後ますます重要であるとともにもその人材育成は必要であると考えられる。

厚生労働省委託事業「受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業」
「DX 推進ができる ICT 活用サポーター養成訓練プログラムの開発とその実効性を高める
地域密着型女性求職者トータルサポートシステムの構築」

ICT 支援員に関するヒアリング調査報告書

令和 6 年 2 月

学校法人 YIC 学院

〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町 2 番 24 号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

本書は、厚生労働省委託事業「受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業（教育訓練手法構築実施団体等）」で学校法人 YIC 学院が実施した「DX 推進ができる ICT 活用サポーター養成訓練プログラムの開発とその実効性を高める地域密着型女性求職者トータルサポートシステムの構築」事業の成果物です。